

●しゃらくかい

写楽同会

平成31年1月31日 037

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

投稿/投票宛先; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2019 Sharakukai

睦月兼題「手または足」 出題：梵木

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

写真俳句



1 元日はれ坂道走る配達の人

手焙や炭のことりと崩れ落ち



2 手焙（てあぶ）りや炭のことりと崩れ落ち



手技冴え凍み付く陶土用の美へ

3 手技冴え凍み付く陶土用の美へ

陶芸作家の匠の技をま近に見て感動しました。



4 松納 (まつをさめ) いつもの朝に急ぎ足



5 初日背に手足の長さ競いけり

寒い所なのに今年は、お天気の良いお正月でした。



6 正月も踏まれ続ける天邪鬼



7 サッカーの勝利に歓喜ハイタッチ

勝ったあ！思わず近くの人とハイタッチ。
「サッカー」は冬の季語です。



8 初詣で少し長めに手を合わせ

今年こそはと願いを込めて。

俳句

1 雪しまき足踏み続けバスを待つ

底冷えにじっとしてられず思わず足踏み。

2 はる隣り歩きはじめの土ふまず

小さな足にも、ちゃんと土踏ますが。

3 小気味良く拍手ふたつ明けの春

今年の初詣も快晴に恵まれました。

4 小春日に混浴願う足湯かな

5 こたつなか足つかまれてねこパンチ

6 物干しにかざす手の先春ひかる

まだまだ寒さの残る物干しにも柔らかな春の日差しが感じます。

7 四肢長き孫立つ先に初日の出

私より 少し背が高くなった孫を眩しい気持ちで見ました。



「欲しいけど値段高すぎ手が出ない」

川柳と写真：北切雀
高級デパートのセーターです。

短歌

〈準坊花シリーズ 8〉

ゆかしさを
そっと忍ばせ香り立つ
春を促す蠟梅の花

準坊

英名 “Winter sweet” は寒い冬に甘い香りを放つ蠟梅にぴったり。（長瀬宝登山 蠟梅園）



手が違う雑煮の椀に不細工な花人參を散らす年明け 北切雀

型抜きは使わず、包丁で綺麗な花人參を咲かせていた母の手を思い出す。

川柳

昨日夏今日は冬日と忙しや 準坊

去年の秋・冬は半袖の翌日はコートと異常気象。今年はどうなる。

登り坂息も上がるよ初歩き 北切雀

今年もなるべく歩くように心がけます。

写真投稿 iSAMU



浅間山

我が家から115 k mの距離にあります。
ベランダから望遠で今朝（1月2日）撮りました。



山茱萸（さんしゅゆ）の実

よく間違えられますが、稗搗節（ひえつきぶし）の
ニワノサンシュノキ と歌われるものは、正解は
庭の山椒(さんしゅ)の木だそうで、全く別の木の
事だそうです。僕も長い事間違っていました。
この山茱萸 の実は漢方薬となるそうです。



令法（りょうぶ）の実

枯れた方の令法（りょうぶ）も難しい字ですが、夏に白い花を沢山付けます。

30年12月「母」（出題者：池福楼）の作品と投票結果

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

- * 今回は母というテーマで、読んでて涙が出てきました。皆さん、感動をありがとうございます。
- * 昔からの母親像が圧倒的でした。仕事と育児をこなす、現代の若い母親を詠んでもよかったのでは。

写真俳句 投票数：31

一席



床伏して
母の作りし
葛湯待つ

床伏して母の作りし葛湯待つ

久芽（7票）

<< 熱を出して食欲がないときはよく作ってもらいました。懐かしい味です。>>

- * 上五に若干抵抗があるのですが、葛湯には勝てない。
- * 葛湯の温かくなめらかな味わいは母そのもの。
- * 遠い日の思い出でしょうか。

佳作7句（平成30年12月号掲載順）



初時雨
母の遺した
香を聞く

初時雨母の遺した香を聞く 準坊

<< 時雨どきのリフレッシュに香を焚いてみました。>>

- * 時雨が冬の季語とは、勉強になりました。
- * 母親の遺品を前にして外はそぼふる雨、母へのせつない心情、思い出が香とともに漂ってくる。いい句ですね。

そうび

冬薔薇萎む花びら母想う iSAMU

- * 薔薇に特別な想いが有るのでしょうか。
- * 萎みかけた冬薔薇を詠むというところが、とても斬新ですね。
何となく自分もそんなイメージに近づいているので複雑な心境ですが、母親に対する愛情が感じられていいですね。
- * 視線の先に朽ちゆく美。
- * 葉を落としてなお咲く冬ばらの佇まいが年老いた母の面影に結びついて印象的。



- * 冬薔薇なる言葉があることも知らずにいました。今年もいろいろ学ばせていただきます。
- * 「薔薇」と「花びら」が少々被ってるので、「花びら」の4音はもっと活用できると思う。
「冬」と「萎む」でとてもさみしい句だけど、なんだかお母さまが素敵な雰囲気にも包まれる。



ねんねこの母に引かれてとことこと 北切雀

<< とことこあるくから「とこちゃん」・・・それが私のあだ名だったそうです。下手な記憶絵です。>>

- * この絵も素晴らしいし、この情景がとっても懐かしいです。こういう親子はもう見ないでしょうね。
- * 素晴らしい童画ですね。絵本の作品の1頁のよう。綿入れの中の子も手を引かれる子も母の大きな愛情に包まれています。
- * なんとも言えないほのぼのした感じがいいですね。「絵」やさしい色合いとトコトコ歩く後ろ姿が愛らしいです。
- * ねんねこなんて懐かしい…亀の子なんていうのも有りましたね。子供がぐずついたらすぐおんぶ。するとすぐ眠ってくれたものです。絵本の1ページのようでいいです。
- * 見るからに暖くなる絵と俳句ですね。



湯たんぽやぬくき優しき母が居る 池福楼

<< 厳冬になると思い出す亡母のぬくもり。>>

- * 湯気がいいですねえ。ほんわり、まさに「お母さん」。
- * 湯たんぽのぬくもりは、まるで母のぬくもりのようですよね。
- * 湯たんぽのぬくもりと母の優しさが伝わります。
- * 冬ならではの湯気が綺麗に写っていますね。

秋の日の母校の木々の高さかな 昼寝覚

<< 中学を卒業して約60年、通っていたころ見た木もたいそう高くなっておりました。>>

- * 兼題は「母」ですが母校とは座布団一枚ですね。
- * 抜群の発想、恐れ入りました。
- * 「母」のお題が「母校」になって面白い。子供のころ知っていた場所へ戻ると、記憶より小さく見えることが多い中、木が成長して大きくなってるという句がユニークで良い。
- * 60年前に時計が逆戻りするノスタルジー。「母校」とは良くいいあてたものです。
- * 木々の成長から、懐かしさと同時に時の流れを感じますね。
- * 秋は木々の高さに気づくことが多々ありますね。



師走の夜米の酵母で暖まる 梵木

- * この発想も素晴らしい。お相伴します。
- * 日本酒の熱燗にするめでもあれば最高！ 酒と言わないところがこの句の値打ち。



母笑みし平尾の秋の空高し 千泉

<< あの日も青空の下パラグライダーが飛んでいました。>>

- * 胸にしみじみとした思いと、空の青が染みる句と写真です。
- * 写真は福岡の平尾台でしょうか？お母さんの笑顔と素晴らしい景色、最高の思い出が蘇えますね。

俳句 投票数：31

一席

母の味にいまだとどかぬ栗の飯 千泉（9 票）

<< とどかぬまま、作る機会も減りました。>>

- * 「・・・栗の飯」は「・・・栗ご飯」でもいいかな。
- * とても良い句だと思う。好きな日常の生活の描写で、「いまだとどかぬ」の奥には良くも悪くも「いつまで経っても」という感じが出ていてよい。
- * 栗の皮をむくのは大変な作業です。お母さんへの労いを感じられます。ただ上五の字余りが気になります。「に」は無くても良いのでは。
- * 母の得意料理は、なかなか再現できないですね。
- * なかなか母の味には届きませんよ。何が違ってた水？米？舌？

佳作6句（平成30年12月号掲載順）

今朝寒い背に母の声ふり向かず 梵木

- * あるある。自分にも母にろくに口を利かない時期がありました。
- * 朝の登校か？玄関での母の声が言霊のように残り、今もその瞬間が聞こえている。
- * 反抗期の少年の行動でしょうか、ほほえましいですね。

過去形で母を語るか冬董 北切雀

<< 母は董が特に好きでした…と、過去形。>>

- * 董の好きな女性は優しいといえます。素敵なお母さんを連想します。
- * お母さまを亡くされて日がたつにつれ、過去形で話すようになりますね。

母縮む小さく丸く日向ぼこ 池福楼

<< 百歳の天寿を全うした母、晩年は天使のようでした。>>

- * 100歳のお母さんが天使のようなんて、素晴らしい。私は逆立ちしてもそんな風にはなれそうもないです。縁側で日向ぼっこしているお母さんをととても愛おしく思っているのが伝わります。
- * 私の母は比較的早くに逝ったので、自分がその分も生きねばと思ってはいますが。
- * 小さく丸くが目に浮かびます。
- * 自分の母と重なりますね。母の背中が見えるようです。

受け継ぎし母の湯たんぽ活躍し 準坊

<< 寒がりの母が使っていた湯たんぽが出てきました。重宝してます。>>

- * ぶりきの湯たんぽは母の温かさそのもの。
- * いつの時代も湯たんぽのぬくもりはいいものですね。

年越しの蕎麦打つ母の手際よさ 久芽

<< 母は蕎麦打ちが得意で評判でした。子供の頃は美味しいとは思いませんでしたが今では好物の一つです。>>

- * 自分も蕎麦を打つ事がまれにありますがいマイチです。
- * 年越し蕎麦を手打ちで作る母親か。年越し蕎麦さえ食べなかった私としては耳が痛いです。こういう慣習を続けている家族が残ってくれることを望みます。
- * 父が 美味しい音を立てて食べるのを教えてくれたのが懐かしい。
- * 年越しの多忙の中、蕎麦打ちとはパワフルなお母さんですね。
- * 昔の母親は本当に手際の良い人が多かった気がします。

母からのセーターの袖の毛玉かな 昼寝覚

<< 七回忌も過ぎると、母からもらったセーターも古くなりました。>>

- * 毛玉は嫌われ者ですが、お母様につながるそれをいとおしく見る作者のまなざしが感じられます。
- * 下5の「毛玉」で時間の経過と、嬉しく着用していた雰囲気温かく伝わる。
- * 手あみのセーターこそぬくもり、懐かしさ。残しておきたい宝もの。

短歌

〈準坊花シリーズ 7〉

もう少し
頑張っていて欲しいのに
風に遊ばる
さざん花無常

<< 椿は花首から落ち、山茶花は花びらが散る。
咲いている時は見極めが難しいですね。>>



- * 暗い背景から花が浮かんだ3D写真のようです。終わりの7音に溢れる花への思いやり。
- * 冬の街に身近に咲く花を親しみを込めて詠んだ作者の感性に、山茶花を見直したい気分です。

大空に広がる雲は母の文時には綿の時には波の

<< 母は筆まめな人でした。今、母は雲で手紙を書いてくる・・・と空を見えています。>>

- * 下の句の繰り返し（リフレイン）は短歌の技法といわれますが、見事に効果を上げていますね。

川柳

根拠無し適材適所胸を張る 準坊

<< ボロボロとボロが出てくる内閣人事。>>

- * パソコンを使えないサイバー担当大臣…トホホ。

コンサート拍手喝采に眼を醒まし 準坊

<< クラシックコンサートで妻は時々眠る習性があります。>>

- * 主婦の日頃の多忙さが分りますね。

早々とゴーンゴーンと除夜の鐘 準坊

<< 日産もエライ事になりましたね。>>

- * 日産にはお世話になったので、複雑な気分。
- * 矢沢永吉CM「やっちゃんえ！NISSAN」放送自粛に。

<< カタカナに弱い母でした。>>

* メール送るのに切手どこに貼るのと言った爺さんがいた。

写真いいね



ねんねこの母に引かれてとことこと

北切雀

推薦者：3名

- * 「記憶絵」フロ（NGさん）
- * ねんねこの絵に「写真いいね」1票（ESさん）
- * 絵が素晴らしいですね。童話の絵本を見ているようです。才能あり！（準坊）



湯たんぽやぬくき優しき母が居る

池福楼

推薦者：1名

- * 湯気をしっかりキャッチしたドラマチックな写真。しかも俳句と一緒にすると優しげ。湯たんぽと背景との色の対象も印象的（SNさん）。

写真投稿



平林寺紅葉 準坊

<< 新座の平林寺へ紅葉の見頃に行ってきました。
ジジ・ババ達の笑顔も溢れていました。>>

- * もと地元としては懐かしい写真。このお寺さんには除夜の鐘付きにも行きました。寒かった！（北切雀）

- * 作者さん、読者さん、いつもご協力ありがとうございます。多々ある不備、不手際のお見逃しも感謝です。
- * 平成31年2月の兼題は久芽さんから「動物」、3月は千泉さんから「学校」と出ています。
- * 平成31年1号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた2作品の番号を投票して下さい。
- * 句とは別に、写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら、「写真いいね!」として投票下さい。
- * 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。短歌、川柳也大歓迎です。
- * 睦月1月への投票、如月2月号作品への投稿の締め切りはともに**平成31年2月18日**です。
通常より2日早い締め切りとなりますのでご注意ください。
- * 随想、珍事報告など書き込みの他、読者さんからの写真や句の投稿、兼題提案もお待ちしています。

「写楽句会」(五十音順)

池福楼、iSAMU、北切雀、準坊、隅っ孤、沈丁花、千泉、久芽、昼寝覚、梵木

写楽句会037(連絡先: kinuko_thompson@hotmail.com)

© 2019 Sharakukai

筆責: 北切雀

校正: 準坊、池福楼

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

